

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ふるーる	種別：生活介護	
代表者氏名：阿部 由美子	定員：30名(51名)	
所在地：〒252-0328 相模原市南区麻溝台699-1		
TEL：042-711-8377	ホームページ： <a href="http://www.tomoni.or.jp/fleur/">http://www.tomoni.or.jp/fleur/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成19年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会		
職員数	常勤職員：10名 非常勤職員：22名	
専門職員	(専門職の名称) 名	
	看護師 4名	
施設・設備の概要	(居室数)	(設備等)
	作業室3室	入浴設備
	和室	洗面設備
	相談室	トイレ
	事務室	更衣室
	食堂	

③ 理念・基本方針

運営法人である県央福祉会は理念として1.共生社会を目指します。2.先駆的で開拓的な事業を展開します。の二点を中心に据え、その達成のため人権尊重とサービスの向上・インフォームドコンセント及びエンパワーメントを大切にした利用者主体の支援・地域との共生・ニーズの多様化複雑化への対応・コンプライアンスの徹底・説明責任の徹底・人材確保育成・ガバナンスの強化・財政基盤の安定化・国際化・積極的な社会貢献活動への取り組み等11項目の基本方針をあげています。当施設では法人の理念を踏まえたうえ、以下の方針を掲げています。ふるーるのモットー：「明るく！楽しく！元気に！」を掲げ、ホームページ上では方針として、「ふるーるでは、利用されるみなさまお一人おひとりの生活や生き方を尊重し、その人らしい生活を実現することを目指し、個人を尊重した支援をおこないます。“ふるーる”とは、フランス語で「花」を意味する言葉です。」を掲げています。

④施設・事業所の特徴的な取組

小田急線相模大野駅からバスで20分、県道507号村富線と北里けやき通りの交差する交差点近くにある国道16号線鶴野森交差点に程近いところにある自閉症の方、知的障がい者の方、身体障害者の方の生活介護などの支援を行なう施設で、主として日中に入浴や排泄、食事などの介護、生活相談、創作的活動の提供を行なっています。1日の定員は30名とされています。登録は51名。男女比は32：19。利用者の平均年齢は41.1歳で、そのうち20代から40代までの方74.5%を占める若い方が多く利用しています。障がい支援区分5～6と重度の方が多いのが特徴です。利用者の在籍

年数は5から15年の方が88%と長く利用されている方が多いです。  
 ふるーには、3つのグループがあり、自閉症の方が所属するAグループ・その他の知的障がいの方が所属するB1グループ・主に身体障がいの方が所属するB2グループに分かれて活動をしています。現在は重複障がいと精神障がいの方もいます。それぞれのグループの得意なことを活かし、自主製品の作成や受注作業、納品・営業と作業を分担し、日々皆さんにいきいきと過ごしてもらえる環境作りを目指しています。また、レクリエーションや季節のイベント、音楽療法やトランスフィットネスなど、余暇活動にも力を入れており、活動の際はグループの垣根を越えて、皆で交流できる機会となっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月16日（契約日）～ 令和4年12月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2019年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)利用者が自発的に意思を表出できる支援をしています  
 利用者の多様な障害特性に対応して、多様なコミュニケーション方法を模索し実践しています。例えば、口頭でのコミュニケーションが難しい場合には、絵・写真・文字盤などコミュニケーションツールを取り入れて支援を行っています。ヴィジュアル的な方法を職員で共有していましたが、利用者によっては絵ではなくキーワードを書いたカードを使用することが得意な方がおり、キーワードを書いたカードを作成するなど、利用者の潜在能力を引き出すことが出来たケースもあるようです。積極的に利用者のニーズを聞き出そうというスタンスよりは、利用者が自発的に意思を伝えることが出来る環境を整える支援の姿勢が見られます。

2)社会参加や大学との交流が行われています  
 5年ほど前から隣接地にある北里大学医療衛生学部との交流が図られ、利用者への社会参加の機会を提供しています。大学の授業に参加し情報を提供することにより、学生の授業を生きたものにするというメリットも生まれています。利用者が学生とかわかることで、利用者の余暇の充実になっています。作業療法学の一環として、学生の発想による「手を動かす/物のやりとりを行う」ための独自の治具の開発などで自由事業につながっています。コロナ禍で直接来所が難しく交流の機会が減った後も、治具の改善などで外部との交流が続いています。

3)業務を整理した結果を職員バランスに適用することが期待されます  
 職員はお互いに助け合い、働きやすい雰囲気づくりに配慮しながら利用者とのコミュニケーションを大切にしています。人材の確保・育成計画を作っていますが、職員への周知が不十分です。職員の仕事量にも個人差があり、人手不足を感じています。業務の整理が進んでいる中で、全体のバランスについて職員への周知と理解が期待されます。

4)事業活動をわかりやすく発信することが望まれます  
 法人のホームページはイラストを用い柔らかい雰囲気で作成され、各種情報提供を行っています。事業所のホームページは、活動内容、製品紹介などの記事が写真やイラストを取り入れながら分かりやすく紹介していますが、更新がしばらく滞っており、イベント情報なども不足しています。「今」の情報を提供することは大切です。未来

の利用者や地域の方に対しても事業所の活動をわかりやすく表現することが必要です。多くの人に興味・関心を持って見てもらえるように工夫することにより、施設への理解が進むことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度の第三者評価を経て、利用者様の率直なお気持ちや職員の意識などを客観的な視点でヒアリングしていただいた結果を伺うことが出来、大変参考になりました。一つ一つのご意見を大切に、日々の施設運営に取り組んでいけたらと存じます。また、マニュアルやシステムのな所としては、法人や事業所のコンセプトをもっと利用者様にわかりやすい形で提示したり、新型コロナにより開催が少なくなっている家族懇談会の代わりに施設の最近の動向・皆様のご様子などをお伝え出来るようなお便りを作成したりなど、まだまだ取り組める部分がたくさんあることに気づくことが出来ました。普段の申し送りやお電話のやり取りだけでなく、施設側から発信できるようなツールも活用しながら、職員と利用者様・ご家族様がより身近につながっていけるよう、取り組んでいきたいと感じました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり